

平成 25 年度 ナラティブと質的研究分科会活動報告

代表 やまだようこ

報告 浦田 悠

平成 25 年度のナラティブと質的研究分科会の主な活動は以下の通りであった。

1. 研究集会

- (1) 第 3 回研究会「ビジネス現場のナラティブ・ワークショップ」：2013 年 6 月 2 日，立命館大学（衣笠キャンパス）にて，小林恵子氏（富士ゼロックス総合教育研究所）を講師・ラーニングデザイナーとして，参加型のワークショップを開催した。
- (2) 第 4 回研究会「病いの語りと当事者性」：2013 年 10 月 27 日，大阪大学吹田キャンパスにて，「当事者性を考える研究者の会」との共催で開催した。稲原美苗氏（大阪大学），菅波澄治氏・田辺裕美氏（大阪大学），嶋田久美氏（京都大学）からの話題提供があり，それぞれ活発な議論を行った。
- (3) 第 5 回研究会「当事者-非当事者間の対話に基づく実存の構築」：2013 年 11 月 30 日，立命館大学（衣笠キャンパス）にて「生存学若手プロジェクト（生存のナラティブと質的研究会）」との共催で開催した。木戸彩恵氏（立命館大学）と福田茉莉氏（立命館大学）からの話題提供と議論を行った。
- (4) 第 6 回研究会「いじめをめぐる代弁をかさねる-教育関係者の代弁といじめ自死児の保護者の代弁-」：2013 年 12 月 8 日，京都大学にて，望月彰氏（愛知県立大学）・阪根健二氏（鳴門教育大学）・竹内和雄氏（兵庫県立大学）を登壇者，戸田有一氏（大阪教育大学）が企画者・聞き手として研究会を行った。
- (5) 日本発達心理学会第 25 回大会ラウンドテーブル「『慢性の病い』の新しい医療実践と教育を考える」（2014 年 3 月 22 日，京都大学，企画：ナラティブと質的研究会）

2. 学会企画

以下の研究集会を他研究会等との共催で企画・実施し、有意義な議論を行った。

- (1) 「ナラティブとディルタイ」(2013年7月6日(土), 大阪教育大学, 主催: 日本ディルタイ協会)
- (2) 「『質的心理学ハンドブック』シンポジウム」(2013年6月1日, 立命館大学, 主催: 日本質的心理学会)
- (3) 「超高齢社会の新しいエイジング国際研究-星野和実先生(ペンシルベニア州立大学)を招いて」(2014年1月20日, 立命館大学, 主催: 生存のナラティブと質的研究会)

3. 読書会の実施

2014年1月19日(日)に、以下の洋書の読書会を立命館大学(衣笠キャンパス)にて開催した。

Perret-Clermont, A.-N., & Barrelet, J.-M. (Eds.). (2008). *Jean Piaget and Neuchâtel: The learner and the scholar*. New York: Psychology press.

4. メーリングリストによる研究交流

研究会専用のメーリングリスト(narrative123@googlegroups.com)を利用して、会員の交流と情報交換・情報発信を行った。25年度末までに会員は120人を超え、全国組織として学際的なメンバーで活発な情報交換を行った。

5. HPによる情報発信

上記の研究会に関する情報については、代表のやまだようこのウェブサイト(<http://www.ritsumei.ac.jp/~yyr12085/yyamada/ynarrative.htm>)に研究会のページを作成し、発信した。